

## お金と自分を捨てた時、ちがう「わたし」が動き出した

伊丹ルリ子

### 私の転機

2011年3月11日、東日本大震災が発生し福島原子力発電所がメルトダウン。海岸付近は津波で流され、原発は制御不能になり、今も放射能汚染が続いています。テレビニュースで見る津波は、目を覆いたくなる恐ろしさでした。津波と地震で約20,000人の尊い命が失われました。「神も仏も無い！」私はこの世に失望しました。

しかし思い直して、「神様お願いします。わたしをお使ってください。」と祈りました。私に何か解決策があったわけではなく信仰心も無く、成すすべがない時の神頼みでした。

その夜、インターネットで農業のことを見ていると、兵庫楽農生活センターの楽農学校が生徒を募集していました。申込締切りが明日だったので、すぐにネットで手続きをして、次の日に学校へ面接に行きました。

### 農業学校

そして私は、我が家の通帳を全部夫に渡し、お金を手放した生活を始めました。楽農学校では、1人にハウス1棟と畑（路地）700㎡が与えられました。

おどろくほど身軽になったので、農業が楽しくなり夜明けから暗くなるまで毎日農業学校に通いました。何が楽しいかと申しますと、自分の考えで動ける仕事で、結果の良し悪しも自分の経験に繋がり、毎日達成感があります。種をまいて芽がチョコっと出た時は、かわいくて、「元気に大きくなってね」と声をかけてしまいます。ハウスでレタスが元気に育ちました。私は農薬も化学肥料も使わないので、ハウス内は病害虫で大変なことになるかも知れませんが、病気になったら、自然界へ戻してあげます。外では、害虫もいなくなりました。トラクターも自由に使わせていただけました。

私は農薬の授業を受けながら、使っていないので、先生から白い目で見られ、孤立していました。険悪な空気が続きました。しかし私は薬剤師でしたので、子どもたちの食べ物に使ってはいけない農薬は使わない方針を変えませんでした。卒業する時に、先生が私に「有機コースを作っておくべきだったね。」と声をかけてくださって、うれしくなりました。私の人生で最も楽しい1年でした。

### 農産物加工

卒業時にセンター長から加工の仕事を勧めていただき、5年間させていただきました。しかしこれが最悪で、この間なぜか商品ができませんでした。また周り

から白い目で見られ、ついに追い出されてしまいました。センター長にはお役に立てず申し訳ない限りです。

商品もいろいろ作って見たのですが、健康に良い加工品を作るのが難しく、手間暇かけて採算が取れないのです。

そこで、無理なことはあきらめて、有機作物の加工体験教室に5年間力を注ぎました。その場でつくってその場で試食していただけるので、安全で美味しく健康的です。ご家庭で簡単に作れるものを、毎月教室で教えました。子どもたちに安全なおやつを食べさせたくて。毎回レシピを考えました。開催3か月前にはセンターが参加者募集のチラシを作ってくださいるので、レシピができていなくても先行して、タイトルに{有機野菜のクリスマスケーキ}とか書いて提出します。ところが、美味しく感動するものはすぐには出来ません。

砂糖など調味料も素材から選びます。当日も参加者に素材を見ていただいて、どんなものを選ぶかをお話ししました。毎月試作が大変でした。前日になっても感動するほどのものが出来なくて、もうダメ~と思うのですが、あきらめずにがんばりました。そうすると、当日の朝になって、アレっと思うほど美味しい玄米ケーキが出来るのです。うれしくなりました。

その繰り返しで毎月1回、5年間していました。玄米シフォンケーキ、かぼちゃプリン、いちごコンフィチュール、さくらケーキ、玄米かしわもち、梅ジュース、ピクルス、玄米パエリア、黒豆ごはん、切り干し大根ランチ、有機味噌・・・とお菓子や保存食をご家庭で作ってほしくて、楽しく教室をさせていただきました。今考えてみると、毎回レシピが完成するのが、前日か当日なのですが、これは、人間に備わった能力かもしれない。オリンピック選手が当日に自己最高新記録を出すのと同じでしょうね。

## 有機農業塾

2017年 私は、加工室を追い出されて、有機農業塾に参加させていただきました。

神戸大学名誉教授の保田茂先生から保田ぼかしを使った有機農業が学べるとあって、大変人気があります。1年で終了ですが続けられる方も多いです。この年の途中で、ひょうご安心ブランド認証を兵庫県に申請しようという提案が受講生から出ました。希望される方も多数おられるようで、講師の西村先生が学校に手続きを要請されていました。しかし、終了式当日、出来ないと言われ、私はそんなバカな、みなさん申し込みを書いて来られているのにと即学校に申し立てをしました。しかし返事は出来ないとのことで、終了式の終わりに仕方なく「わたしが団体申請します」と言ってしまいました。

・・・めちゃくちゃ無謀なことでも必要ならしてしまう「わたし」・・・

ひょうご安心ブランドを作られた西村先生も即座に対応してくださって、「会長は内藤さんお願いします」とご指名。あと2人事務局員は、私が指名させていただきました。この一部始終を受講生みなさまは、見ておられたので、何事も無く決定し、わたしはありがたくてうれしくなりました。しかし団体申請の大変さをだれも知る由もありませんでした。

一難去って、また一難の繰り返しですが、ひょうご安心ブランド認証の保田ぼかし有機農業がスタート出来て、良かったと思います。

保田ぼかしは、先生が自然環境や人体の栄養などを考えて研究開発されたボカシです。(米ぬか6、油粕3、魚粉2、牡蠣殻石灰1、水2)を混ぜてビニール袋に詰め空気を抜き、低温嫌気性発酵させます。春夏は3週間で熟成。畑は草マルチをします。

大災害で食料確保が困難となった時に、何も無くても、周りにある材料で保田ぼかしに近いボカシを作れば、どの作物も同じ栽培方法なので簡単に、だれでも食料を作れるかも知れません。

#### シェア農園

近年、異常気象が続き、2018年は大型台風が次々来て、がけ崩れや洪水で大きな被害が出ました。

- ・2019年から、気候非常事態宣言が世界で出され、2020年4月時点で28カ国の約1500自治体などに、日本でも2020年3月時点で15自治体に上ります。

- ・2018年8月からFriday for Future若者たちの気候対策を求める行動が世界中で広まりました。国際連合の気候変動サミット3日前の2019年9月20日グローバル気候マーチは、世界史上最大の気候ストライキとなり、主催者によると400万人以上の人々が、世界各地でストライキに参加したとの報告です。

全人類が「地球を守ろう」という同じ思いになって、がんばれば止められるのですが、企業も個人も世界会議も、地球サミットから18年、今だに気候崩壊を止められません。

このまま行けば、50年後、子どもたちがかわいそうなことに！！

2018年から、世界各国が有機農業に切り替え始めました。CO2を土中に固定すると、生き物や微生物が増えて環境が良くなることなどから、気候崩壊を止める効果が期待されています。私は、日本中を有機農業か自然農にしたいと思っています。

2020年1月、私は、耕作していない農地をお借りして、有機農業をしたい方

に提供することを考えました。同じ頃に、シルバーカレッジのお2人が農地を借りたいと申し出られたので、さっそく有機好きの地主さんをお願いしました。農業コンサルタントをされている方で、契約書を作成してくださいました。厳しい条件付きの内容でした。素人が農地を貸してくださいと言っているのだから、当然トラブルを避けたいのだと思いました。

私は、田畑の価値を下げるような価格交渉はしたくないので、無条件で契約いたしました。しかもそれを人に貸すのですから、また貸しと思われて断られても当然です。

私は、農業委員会を通して、賃貸契約をしました。農業委員会でダメと言われる可能性があるので、お話しをしに行ったのです。

いろいろ村のことなど雑談しながら、話しの途中で言葉を挟んで、「新規就農者を育てるために、使われていない農地を有効活用して有機農業を広めたいのですが、問題点は何でしょうか？」と、お尋ねしました。担当の方は、やさしく話してくださいました。「伊丹さん、是非やってください。農業学校では、作物のことしか教えません。実際に農村で仕事をするための知識はだれも教えてくれません。そこが新規就農の問題点です。あなたは、すでに農家登録して5年以上たっていますから、大丈夫です」と応援してくださり、私はうれしくなりました。

地主さんに農業委員会の意向もお伝えして、また貸しの事例も紹介し、契約書に条件を追記していただきました。地主さんは、きびしい条件をたくさん付けられましたが、悪意は無く、快くトラクターを貸してくださいます。

私にしては大成功！ いえいえ、私じゃない、「わたし」が動いている。

私が参加している団体です。訪問してみてください。「母なる地球を守ろう研究所」 <https://www.motherearthresearchinstitute.org/>